

千葉県少年野球地域選抜 6 年生大会

大会競技規則

1. 最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する最新「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する。

大会特別規則

(出場資格及びチーム構成)

1. 大会出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟（以下「法人」という）の構成会員（以下「チーム」という）であり、最終日の試合まで参加できるチームであること。
2. チーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ（2名）、スコアラー、介護員（成人女性2名以内）と選手（6年生）17名以上20名以内とする。ベンチ入り指導者（監督・コーチ）は認定指導者有資格者とする。 ※試合前のトス時（メンバー確認）に認定証の提出を求め確認する。
また、監督・コーチ等の指導者は地域に於いて決定した者があたることとする。
3. このチームの代表者は地域理事とする。ただし地域理事が参加出来ない場合に限り、地域理事が指名した者が代表としてベンチ入りすることを認めることとする。
4. 選抜する選手は、地域に所属のチーム内から広く選抜するものとし、4チーム以内からの選抜は認めないものとする（5チーム以上）。
5. 出場チームは、この法人の定款、大会規則、大会特別規則を遵守するとともに、代表者、指導者及び選手を所属地域以外から補強及びその他の不正を行うことを禁止する。
6. 前項に違反した場合は、没収試合とし相手チームに勝利を与え、後日協議し処分を言い渡す。

(服装・用具)

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニホームまたは、所属チームのユニホーム・帽子・ストッキング(アンダーソックス着用)・アンダーシャツを着用すること。代表者・スコアラー・介護員の服装は平服とし、帽子（連盟役員の帽子も可）を着帽し、靴は運動靴またはアップシューズとする。
※ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。
2. 背番号は、監督30番、コーチ29番・28番、主将10番、選手は0番から27番とする。背番号の重複は認めない。スパイクシューズは、監督・コーチ・選手全員とも同系色か所属チームのものとする。（金属歯のスパイクは禁止する）。
3. ヘルメットは「J S B B」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いた物を最低8個用意し、打者・次打者・走者・ベースコーチ・ボールボーイは必ず着帽すること。
4. 捕手（控え捕手も含む）は、マスク（スロートガード付および一体化も可能）・レガース・プロテクター・ヘルメット及びファールカップ（女子選手は除く）を着用すること。
5. 投手の守備を除き、選手（打者・守備）の手袋及びリストバンドの使用は認める。
6. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「J S B B」公認マーク入りのものに限る。ただし破損（変形）・加工バットの使用は禁止する。

(抽選会・開会式)

1. 大会の出場チームは選手名簿を提出し、開催前に行われる理事会で各地域の理事によって組合せ抽選会を行い大会トーナメントを決定する。
2. 大会の開会式での選手宣誓は、組合せ抽選会での結果に基づき、出場する全チームの中から理事長（不

在の場合は副理事長等)が、抽選番号クジを引いたチームの選手とする(基本的には主将)。

3. 大会開会式での各地域チームの集合時間は、開始時刻30分前までに受付を終了し、選手は指定された入場行進場所に整列していること。
4. 各チームの入場行進順は、先頭が前年度優勝地域チーム次に準優勝地域チーム、続いて抽選番号の若番からプラカードを持つ者が先頭で、背の低い順に並んで行進する。
5. 大会に出場する選手は、開会式に参加するものとし、特別な理由がない限りこれに違反した場合は、試合に出場することは出来ないものとする。ただし緊急を要する場合に限り認めることとする。

(試合の集合時間・準備)

1. 第1試合のチームは、試合開始予定時刻の1時間前までに集合し、指導責任者により受付を終了すること。第2試合以降も同様とする。
2. 試合中止の場合は、大会本部から連絡する。連絡が無い場合は試合会場に集合する。
3. メンバー表の提出は、第1試合は試合開始時刻30分前、第2試合以降は40分前までに監督・主将が5部持参し、グラウンドルールや注意事項等を確認すること。ただし特別な理由がない限り、前記時間内にメンバー表の提出がない場合は、監督のベンチ入りは認めないこととする。
4. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする。攻守の先攻・後攻はメンバー表提出時にトスにより決定する。(トス時に両チームともベンチ入りの3名の指導者認定書を携帯すること)
5. 試合前のシートノックは、後攻のチームから開始し、時間は5分間とする。ただし前の試合の遅れや天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止して試合を開始する。
6. シートノック時のユニホーム着用指導者は、シートノック及び選手からの返球の捕球及びブルペンでの投球練習の捕手を行うことは認める。ただし試合開始後はこれらの補助は認めない。
7. シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽の上前方からのトス渡しとする。試合中での球審へのボール渡しをするボールボーイも必ずヘルメットを着帽する。
8. ベンチ入りの代表・監督・コーチ等の指導者が試合中にベンチを離れた場合は、退場したものと見なし再びベンチに戻ることは出来ない。ただし緊急を要する場合に限り認めることとする。

(試合時間等)

1. この大会の試合はトーナメント戦とし、1試(1時間30分)合7回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先とする。1時間30分を超えた時は、新しいイニングに入らずその時点の得点を持って勝敗を決する(同点の場合は特別延長戦ルールを適用する)。決勝戦も同様とする。
2. 得点差によるコールドゲームは、4回均等回終了後以降7点差以上の時に適用する。決勝戦も同様とする。
3. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回均等回終了後適用する(同点の場合は抽選とする)。4回均等回終了前については、再試合とし後日の第1試合前に行う(決勝戦も同様とし、後日再試合)。日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。
4. 上記2・3項における「4回均等回終了」については、4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合、4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。
5. 1試合のタイム数の制限：7回戦で攻撃側3回、守備側3回、特別延長戦は1回につき各1回とする。守備時に3人以上が集まればタイム1回と見なす。

(試合)

1. 同一投手の投球回数は1試合3イニング(特別延長戦も含めて9アウト)とする。1日2試合の場合は、2試合目も同様とする。(1日の合計6イニング18アウト)。
2. 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。(その試合での再登板も認めない)

3. 打者走者及び走者は、走塁の時ベースコーチまたは選手に触れてはならない。その場合は走塁補助と見なしアウトを宣言する。
4. 死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者（投手・捕手を除いても良い）とする。
5. 審判員に対するアピールは、監督と当該選手に限り認める。選手交代を行うときは、監督が球審に申告する。メガホンの使用は、監督に限り認める。
6. 監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また選手への指示についても同様とする。但し、同一イニングに同様の行為を2回行なった場合は、投手を交代させる。
7. アウトを取る意思のない投手の牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はボークを宣言する。
8. 仮設球場等の場合は、球場責任者が球審と両チームの責任者に対してローカル・ルールの適用を説明し試合を行う。
9. 相手チームに対して悪質な抗議・野次等を行うチームには、当事者または代表・監督の退場を大会責任者・球場責任者・当該審判が退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援で望むこと。

（特別延長戦）

1. 7回終了後または1時間30分を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
2. 打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が1塁として2塁・3塁の走者は順次前打者として1死満塁で1イニングを行い、点数の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合はさらに継続打順で1イニング行い、なおも勝者が決定しない場合は抽選とする。ただし決勝戦に於いては繰り返し行う。
3. 特別延長戦中での降雨・日没については、全て抽選とする(決勝戦も同様)。
4. 抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う。
5. 特別延長戦での選手の交代は認める。ただし既に交代した選手との交代は認めない。

（附 記）

1. 試合会場（フィールド外を含む）に於いて、試合前の練習等での選手のバットの使用は禁止する。ただしベンチ入り後の指導者によるバットを使った守備ノックと選手のベンチ前での素振り（指導者立会いのもの）は認める。
2. 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球練習を認める。
3. ベンチ入り10分後にシートノックを開始する（時間の短縮を目指すため）。
4. 各会場に於いては、ベンチ内への組立椅子・机等の持込・使用は禁止する。なお試合終了後はグラウンド整備の手伝いとベンチ内の清掃を行うこととする。

5. 申告故意四球（いわゆる申告敬遠、野球規則 5.05(b)(1)）を採用する。運用方法は以下の通り。

(1) 守備側：①申告は監督からに限る。②連続して行う場合、最初の通告時に申し出ることできる。

③カウントの途中からでも適用可とする。④申告後、その打者への投球数は加算しない。

(2) 攻撃側：①当該打者は一旦必ず打者席に入る。

(3) 審判：①球審はタイムをかけ打者に1塁を与える。

（審判規定）

1. この規定以外の必要事項は、審判員が大会責任者（ここでは球場責任者）と協議して決定する。

※以上の大会特別規則は2021年4月1日付で改訂